

令和7年度上半期 医療事故等行為別件数及び障害区分レベル4・5の概要

(1)医療事故等 行為別件数

行為別	レベル	インシデント				アクシデント			
		0	1	2	計	3	4	5	計
薬剤		72	247	31	350	3	0	0	3
輸血		51	5	1	57	0	0	0	0
治療・処置		9	18	20	47	1	1	0	2
医療機器等		8	13	6	27	0	0	0	0
ドレーンチューブ		1	37	94	132	5	0	0	5
検査		34	82	35	151	2	0	0	2
療養上の世話		9	288	160	457	10	0	0	10
その他		50	57	3	110	0	0	0	0
計		234	747	350	1331	21	1	0	22

合計1353

障害区分(レベル)		内 容
インシデント	レベル0	事故が起こる前に気がついた場合
	レベル1	事故が起こったが、影響がなかった場合
	レベル2	事故により、軽微な処置・治療(消毒、湿布、鎮痛剤投与など)を要した場合
アクシデント	レベル3	事故により、処置・治療を要したが、永続的な障害が残らなかった場合
	レベル4	事故により、永続的な障害が残った場合
	レベル5	事故による死亡

(2)医療事故 障害区分レベル4・5の概要

NO.	レベル	事例の概要および対応	
1	4	概要	頸動脈高度狭窄に対して頸動脈ステント留置術を予定した患者に対し、医師から継続指示がある抗血小板薬を入院前面談時に説明担当者が休薬する説明を行った。休薬1週間後患者は胸痛を訴え救急搬送され心筋梗塞と診断された。緊急カテーテル治療により血行再建術が施行され、リハビリを経て日常生活への復帰は可能となったが、心機能の低下がみられた。
		対応	入院前面談のプロセスの見直しと休薬や外来での指示の方法や情報の確認、連携方法について検討、変更を行っている。

* 公表については個人情報保護に配慮した内容にしています。